

関係機関・団体・課・室長 様

兵庫県農政環境部長

令和3年度 兵庫県農業気象技術情報第6号（10月情報）について（送付）

このことについて、下記のとおり情報を作成しましたのでお送りします。

記

1 気象経過・予報から想定される栽培上の留意点と対応策

作物	地域	栽培上の留意点	対 応 策
水稲	全 県 共 通	1 生育等 中～晩生品種の出穂期は平年並～やや遅くなった。成熟期もやや遅くなると見込まれる。出穂後、収穫までの積算温度は1,000℃～1,050℃日が必要で、適期収穫に努める。収穫籾は急速に乾燥させないように注意する。毎時乾減率の目安は、うるち米で0.8%以下、酒米で0.5%以下である。	
		2 病害虫 (1) トビイロウンカの発生は9月上旬の普通期栽培水稲を対象に実施した調査では、やや少ない発生であった。今後、気温は平年より高いと予想され秋に向けて増殖が進み平年並の発生となると考えられる。 (2) ヒメトビウンカは9月上旬の調査では平年並の発生である。 (3) スクミリンゴガイは稲刈り前の落水とともに、水田土中に潜り越冬する。	2 病害虫 (1) 本田で無防除のほ場や多収性品種作付ほ場は株元を観察し、トビイロウンカの群棲が認められたら被害の拡大を防ぐため、直ちに薬剤散布を行う。収穫期に近い時期の薬剤散布となるので、使用する薬剤の収穫前日数を必ず確認する。病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム） (http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo) (2) イネの刈取り株のひこばえはヒメトビウンカの生息場所となるので、今年、縞葉枯病が発生したほ場では収穫後すみやかにすき込む。 (3) スクミリンゴガイが発生していたほ場は、土の表面をよく乾かしてから、丁寧に耕うんする。
大豆	全 県 共 通	1 生育等 普通大豆は台風による降雨等の影響もなく、着莢数は平年並である。「サチユタカA1号」は難裂莢性であるが、刈取りが遅れると品質が低下するため、他品種と同様に適期収穫に努める。 一方、黒大豆は8月中旬の長雨と日照不足の影響での落花が多いため、着莢数はやや少なく、生育もやや遅れ気味である。また、湿害による生育不良や茎疫病の発生が見られる。排水対策に努め、土壤水分を適切に保つ。 <刈取り適期の目安> ・子実水分20%程度（莢を振ると音がする）になったとき。 ・コンバイン収穫の場合は、茎水分50%以下になったとき。目安としては茎がやや黒みを帯びて、手でポキッと二つに折れるとき。刈取り前には青立ち株を引き抜く。	

大豆 全 県 共 通 続 き	<p>2 病害虫</p> <p>(1) 立枯性病害は、8月下旬の調査では発生ほ場率47.2%とやや多い発生が確認され、今後もやや多い発生のまま推移すると予想される。</p> <p>(2) 紫斑病は、白大豆の場内調査では発病株率5.0%（平年値0.0%）と例年より早い発生が確認されている。</p> <p>(3) ハスモンヨトウは、8月下旬の現地調査では、白変葉の発生ほ場率19.4%（平年値15.7%）と平年並の発生あった。気温は例年より高いと予想されておりやや多い発生になると考えられる。</p> <p>(4) 吸実性カメムシ類は、8月下旬の現地調査では発生密度0.3頭/10株（平年値0.4頭）、発生ほ場率22.2%（同23.6%）と、平年並の発生であったが、今後、気温は平年より高いと予想されていることから、着莢期以降、カメムシ類の活動がさらに活発になり、やや多い発生となると考えられる。</p>	<p>2 病害虫</p> <p>(1) 立枯性病害は排水不良が発病を助長する。急激かつ大量の降雨による停滞水が起らないように排水対策等を実施して、ほ場管理に努める。</p> <p>(2) 紫斑病の対策として、密植・過繁茂のほ場では枝を切除して風通しを良くする。薬剤防除を行う場合は病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考にし、農薬使用基準を守る。また、同系統の薬剤の連用は避ける。病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム） (http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo)</p> <p>(3) 本種の防除上の留意点については後述するキャベツの項を参照。</p> <p>(4) 着莢期以降、カメムシ成虫が飛来し、吸汁や産卵をする。成虫は好適な餌がある場所を求めて移動するが、幼虫はそのまま滞在し、黄熟期まで加害し続ける。薬剤散布は着莢期から10日間隔で2～3回実施する。薬剤防除を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考にし、農薬使用基準を守る。 (http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo)</p>
麦 全 県 共 通	<p>1 栽培管理（播種準備の留意事項）</p> <p>(1) 計画的な播種を行うため、水稻刈取り後、出来る限り早く、ほ場の排水対策を行う。</p> <p>(2) 出芽、初期生育を良くするため、ほ場のpH調整を十分に行う。pHが低いと生育不良を招く。</p> <p>(3) 有効茎数を確保するため、地域に合った播種時期・播種量とする。</p>	<p>1 栽培管理</p> <p>(1) 特にほ場の四隅にコンバインによるわだちができないようにする。水稻の刈取り後、耕うん前に弾丸暗きよや額縁明きよを設け、表面排水を行う。本暗きよがない場合は、通常の弾丸暗きよの設置に加えて、排水口手前を40cm程度掘り下げ、3本程度の放射状の弾丸暗きよをサブソイラーで施工する。</p> <p>(2) 石灰質資材は早めに施用し、土壌pH6.0～7.0になるように調整する。土壌pHが低いほ場は、施用量を増やす。</p> <p>(3) 耕うんは播種直前に行い、県北部及び中山間部では10月下旬から、県南部では11月上旬から播種を行う。ただし、「ゆめちから」は10月下旬から播種を行う。 播種量は10a当たり、10月下旬で6kg、11月上旬で8kg、播種時期が遅くなれば、播種量を増やす。</p>

		(4) 施肥播種機の調整をしっかりと行う。	(4) 播種前に播種量、施肥量、播種深度を調整してから播種し、播種時に微調整する。播種後、排水溝の設置、手直しを行う。
キャベツ	全県共通	<p>1 栽培管理</p> <p>(1) 8月中旬の長雨によりほ場準備、定植が遅れたものの、天候の回復により順次、作付けが行われた。9月に入り、適度な降雨もあり、初期生育は概ね順調に進みつつある。</p> <p>(2) 作業が遅れないよう、適切な時期に追肥、除草等の管理を行う。</p> <p>2 病害虫</p> <p>(1) ハイマダラノメイガは、加西市で実施している調査で、クレオメへの寄生花枝率が8月中は平年よりやや高い寄生率であった。9月上旬の寄生花枝率は21.6%(平年値32.3%)と、平年並であったが、今後、気温は高く、降水量は少ないと予想されており、本種の発生に好適な条件が続くと考えられる。</p> <p>(2) 8月のハスモンヨトウとシロイチモジヨトウのフェロモントラップ調査では、共にほぼ平年並の誘殺数が確認されている。また、9月上旬のネギ現地ほ場におけるシロイチモジヨトウの調査では、被害株率17%の発生が確認されており、多発年であった昨年同時期の22.7%とほぼ同等であった。今後、気温は平年より高いと予想され、両種とも発生に好適な条件が続くことから、被害の発生、拡大に注意が必要である。</p>	<p>1 栽培管理</p> <p>(1) 10月予報は、平均気温は高く、降水量は平年並か少ない見込みである。 9月下旬以降、高温・乾燥が続いていることから、水ストレスを与えないよう、畝間かん水等によりかん水を行う。</p> <p>(2) 結球開始初期の追肥は、畝肩または畝間に施用し、除草を兼ねて谷上げし、遅れないよう計画的に作業を行う。</p> <p>2 病害虫</p> <p>(1) ハイマダラノメイガ幼虫は作物の生長点を加害するため、被害を確認してからの防除では手遅れとなる。本種の発生が懸念される場合は、定植前後の予防的防除に努める。なお、本種の防除対策等の詳細は令和3年度病害虫発生予察注意報第2号(令和3年8月12日発表)を参考にする。 (http://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp/wp/wp-content/uploads/2021/08/03tyuuihou2.pdf)。</p> <p>(2) ハスモンヨトウとシロイチモジヨトウ両種とも卵塊や集団でいる若齢幼虫を見つけたらすみやかに捕殺する。特にシロイチモジヨトウは茎葉の柔らかい部分を好んで食害する性質があるため、定植直後の食害には注意する。中齢以降の幼虫には、薬剤による防除効果が低くなるので、早期発見に努め、若齢期の防除を徹底する。薬剤防除を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針(兵庫県農薬情報システム)等を参考にし、農薬使用基準を守る。また、同系統の薬剤の連用は避ける。病害虫・雑草防除指導指針(兵庫県農薬情報システム) (http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo)</p>
果樹	全県共通	<p>1 栽培管理</p> <p>(1) 降雨や過熟等による果実品質の低下に留意し、適期収穫に努める。</p> <p>(2) 傷害果や腐敗果等の除去に努める。</p>	<p>1 栽培管理</p> <p>(1) 果皮色、糖度、果実の硬さ等から、収穫適期を判断する。</p> <p>(2) 温州ミカンの日焼け果は裂果しやすく、病害の発生源となるので樹上選別で除去する。 イチジクの落果や腐敗果は、ショウジョウバエ類の発生につながるため、できるだけ早</p>

果樹 全 県 共 通 続 き		く園外に持ち出し処分する。また、疫病等の発生状況によっては出荷を一時停止し、臨機防除を行う。	
	(3) 翌年に向けた貯蔵養分蓄積のため、収穫後も葉を健全に保ち、樹体栄養の回復を図る。	(3) 樹体栄養の回復を図るため、適切な礼肥の施用や、少雨時のかん水を行う。	
	<p>樹種別の生育状況（9月下旬：南あわじ市）</p> <table border="1"> <tr> <td>温州ミカン</td> <td>降水量が多く、一部の園で病害の発生がみられる。樹勢は良好で肥大は平年並である。</td> </tr> </table>		温州ミカン
温州ミカン	降水量が多く、一部の園で病害の発生がみられる。樹勢は良好で肥大は平年並である。		
2 病害虫	(1) チャバネアオカメムシ等果樹を加害するカメムシ類の発生量には隔年性があり、本年は裏年（発生の少ない年）に該当する。加西市、朝来市、南あわじ市の予察灯による調査において、チャバネアオカメムシの8月合計誘殺数はほぼ平年並である。今後気温は平年より高いとされており、本種の活動に好適な状況が続くため、これから収穫期を迎えるナシ、カキ等の果実への加害が懸念される。	2 病害虫 (1) 発生状況は地域や園地で異なるため、園地の見回りを実施し、発生や被害を認めたら速やかに防除する。薬剤散布を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守ること。病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム） (http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo)	

※本情報は、9月30日時点のデータを元に作成しています。

2 気象予報

(1) 近畿地方 1か月予報

近畿地方 1か月予報 (10/02~11/01)		2021年09月30日14時30分 大阪管区気象台 発表	
特に注意を要する事項		期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。	
向こう1か月 10/02~11/01	天候	天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。	
	気温	平均気温は、高い確率70%です。	
	日照時間	日照時間は、平年並または多い確率ともに40%です。	
1週目 10/02~10/08	気温	1週目は、高い確率80%です。	
2週目 10/09~10/15	気温	2週目は、高い確率70%です。	
3~4週目 10/16~10/29	気温	3~4週目は、高い確率50%です。	

気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%)			
気温	近畿地方	向こう1か月 10/02~11/01	
		1週目 10/02~10/08	
		2週目 10/09~10/15	
		3~4週目 10/16~10/29	
降水量	近畿地方	向こう1か月 10/02~11/01	
日照時間	近畿地方	向こう1か月 10/02~11/01	

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

(2) 近畿地方 3か月予報

近畿地方 3か月予報 (10月~12月)		
2021年09月24日14時00分 大阪管区気象台 発表		
10月	天候	天気は数日の周期で変わり、近畿太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
	気温	気温は、高い確率50%です。
11月	天候	近畿日本海側では、期間の前半は、天気は数日の周期で変わるでしょう。期間の後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。近畿太平洋側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
12月	天候	近畿日本海側では、平年に比べ曇りや雨または雪の日が多いでしょう。近畿太平洋側では、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。
	気温	気温は、平年並または低い確率ともに40%です。
	降水量	降水量は、近畿日本海側で平年並または多い確率ともに40%、近畿太平洋側で平年並または少ない確率ともに40%です。



※気温・降水量・日照時間は低い・平年並・高い(少ない・平年並・多い)の3階級で予報されます。階級の幅は、平年値の作成期間(1991~2020年)における各階級の出現率が33%となるように決めてあります。

ホームページアドレス

- ・「兵庫県病虫害防除所(病虫害発生予察情報)」
<http://bo.jo.hyogo-nourinsuisangc.jp/>
- ・「病虫害・雑草防除指導指針(兵庫県農薬情報システム)」
<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>
- ・「稲・麦・大豆作等指導指針」
http://web.pref.hyogo.lg.jp/nk12/af11_000000107.html

問い合わせ先

本情報に関すること

- ・兵庫県農政環境部農林水産局農産園芸課 TEL (078) 341-7711 (代表)
農産班: 主作・機械担当 内線 4065
農産班: 野菜担当 内線 4054
花き果樹班 内線 4066

技術内容に関すること

- ・県立農林水産技術総合センター
企画調整・経営支援部 TEL (0790) 47-2435
農業技術センター 農産園芸部 TEL (0790) 47-2410
農業技術センター 病虫害部 TEL (0790) 47-1222
北部農業技術センター 農業・加工流通部 TEL (079) 674-1230
淡路農業技術センター 農業部 TEL (0799) 42-4880

兵庫県ホームページでも本情報を公開しています。

URL: http://web.pref.hyogo.lg.jp/af11/af11_000000097.html
(兵庫県トップページ>食・農林水産>農業>農作物>農業気象技術情報)